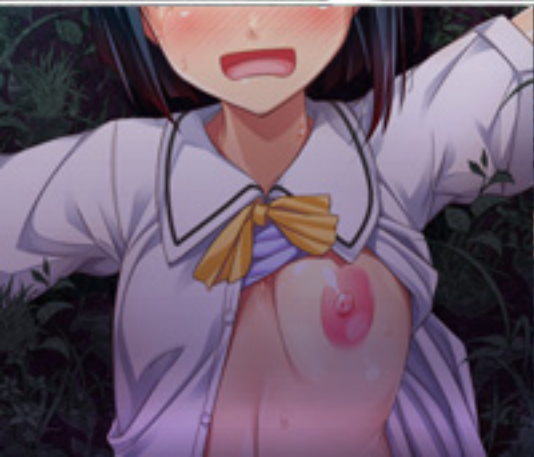




# 悪夢の連続暴行現場

ひと気の無い場所に連れ込まれる2人の少女



ショートシナリオCG集 基本ベース枚数：12枚



男は私を押し倒してスカートを奪い取り、サデイスティックな形相で今度は薄いストッキングに手をかけました。ビリビリとストッキングが引き千切れる音が響き、その間から下着と白い腿が晒されます。私は男が何をしようとしているのか悟って、絶望感と恐怖に悲鳴を上げました。

でも、助けを求める声は宙空に消え、誰にも届きません。必死の抵抗も私の力では余りにも非力で、男はまったく構い無しに、股の間のストッキングを破るのに熱中し、今度は下着にも手をかけ、それも力づくで破り捨てました。

男はそのとき、初めて声を出して笑いました。丸裸に晒された陰部を凝視して。





もう身動き一つ取れない。  
下半身の関節は軋み、お尻の穴は完全に裂けて血が垂れ流しになっていた。


好きなだけ弄ばれ、息も絶え絶えのまま、逃げることもできず、  
車内の天井をただ眺めることしかできなかった。  
しかし、それも男の残酷な笑みがすぐに塞いだ。

覆いかぶさるように私の上に跨って、ポロポロの私の身体を満足そうに見下ろす。  
男のチンコは何度となく射精しているはずなのに、  
まだ犯したりないといったげに反り上がっていた。

男の底知れぬ精力に私は心底怯え、全身が震えて寒気すら感じていた。  
だけど、男はその姿を見て、今度はオナニーを始める。







私はその場にへたり込んで、ひたすら叩き込まれる肉棒の圧力に耐え続けた。男が腰を打ちつけるたびに、メリメリと尻穴が広げられていく。もうどうすることもできない。絶望感と恥辱に悲鳴を上げ続ける。ただただ、男が早くイってくれるのだけを願いつづけるしかなかった。

尻が熱く痛みを発するのと腸をこねくり回されるような感覚に、苦痛と快楽が同時に押し寄せてくる。男も私を弄びながら、快感なのかそれとも嗜虐心を満たした狂喜なのか、唾を飛ばすほど奇声を上げ続けていた。



あまりの苦痛に、吐き出そうとした息を再び飲み込みました。悲鳴を上げる余裕などなく、貫くような激痛に身を悶えさせるのが精一杯でした。

私の膣に突き立てられた肉棒は、その中に潜りこもうと亀頭をくねらせ、ギチギチと肉壁をこじ開けにかかりました。私は苦悶の声を漏らしながら、手元の草を必死に掴みました。

男の身体が被さり、さらに中へ中へと肉棒を押し込んでいきます。膣から流れる血の臭いに、目から涙が止まらなくなりました。

助けて助けて、と必死に心の中で唱えているのに、男の肉棒は私の下半身の中で無造作に暴れ狂い続けます。

男が一気に体重をかけたせいで、私は金切り声のような悲鳴を上げました。その瞬間、ズリユツと肉棒が肉壁を貫通し、私の膣の奥まで滑り込みました。

全身が貫かれるような激痛に身体が仰け反り、ピクピクと硬直したまま動けませんでした。

男は何か言っていました。それを聞く余裕ありません。しかし、その苦痛もさらなる苦痛に上書きされるように忘れさせられました。

